

政治資金監査契約書

年 月 日

委嘱者

受嘱者

収入 印紙 貼付 欄	
---------------------	--

収入印紙は印紙税法第2条による。

本契約書は各葉に契印すること。

政治資金監査契約書

委嘱者〇〇と受嘱者〇〇は政治資金規正法（以下「法」という。）に定める政治資金監査業務（以下「本業務」という。）につき、以下のとおり契約するものとする。

第1条（政治資金監査の目的）

本契約は、法第12条第1項又は第17条第1項の規定の報告書（以下「収支報告書」という。）が法に基づき適切に作成されているかを外部性を有する第三者が専門的な立場から確認し、もって収支報告の適正の確保に資することを目的とする。

第2条（政治資金監査業務の内容）

受嘱者は、委嘱者の収支報告書並びに当該報告書に係る会計帳簿、明細書、支出の目的、金額及び年月日を記載した領収書その他の支出を証すべき書面（以下「領収書等」という。）、領収書等を徴し難かった支出の明細書、振込明細書に係る支出目的書（支出の目的が記載された振込明細書の写しを含む。以下同じ。）、振込明細書、残高確認書及び差額説明書について本業務を行うとともに、その結果に基づき政治資金監査報告書を作成し、委嘱者に提出する。

2 受嘱者は、法第19条の13第2項の規定により政治資金適正化委員会が定める政治資金監査に関する具体的な指針（以下「政治資金監査マニュアル」という。）に基づき、以下の事項について外形的・定型的に本業務を実施する。

- (1) 会計帳簿、明細書、領収書等、領収書等を徴し難かった支出の明細書（振込明細書があるときは、振込明細書に係る支出目的書。以下「領収書等を徴し難かった支出の明細書等」という。）、振込明細書、残高確認書及び差額説明書が保存されていること。
- (2) 会計帳簿には当該国会議員関係政治団体に係るその年における支出の状況が記載されており、かつ、当該国会議員関係政治団体の会計責任者が当該会計帳簿を備えていること。
- (3) 収支報告書は、会計帳簿、明細書、領収書等、領収書等を徴し難かった支出の明細書等及び振込明細書に基づいて支出の状況が表示されていること。
- (4) 領収書等を徴し難かった支出の明細書等は、会計帳簿に基づいて記載されていること。
- (5) 収支報告書は、残高確認書及び差額説明書に基づいて翌年への繰越しの状況が表示されていること。

3 本業務は、政治資金の使途の妥当性を評価するものではない。

第3条（政治資金監査の対象期間）

本業務の対象となる期間は、●●年●月●日から、●●年12月31日までとする。

ただし、上記期間内に、委嘱者が解散し、又は目的の変更その他により政治団体でなくなったときは、その日までとする。

第4条（本業務の体制及び本業務を受ける体制）

（1）委嘱者側

会計責任者 ○ ○ ○ ○（連絡先：地位：資格等）

担当者 ○ ○ ○ ○（連絡先：地位：資格等）

（2）受嘱者側

登録政治資金監査人 ○ ○ ○ ○（連絡先：地位：資格等）

業務従事者 ○ ○ ○ ○（連絡先：地位：資格等）

第5条（実施の時期、日程及び場所並びに政治資金監査報告書の提出期限）

本業務の実施の時期及び日程は、受嘱者の申し出に従い、別途協議する。

- 2 本業務の実施場所は、政治資金監査マニュアルに基づき以下に所在する委嘱者の主たる事務所とする。

○○県○○○市○○○○町××番××号

なお、委嘱者の事情等により、本業務の実施場所を委嘱者の主たる事務所以外とすることとなった場合は、別途協議する。

- 3 受嘱者は、政治資金規正法施行規則に定める様式に基づき政治資金監査報告書を作成し、委嘱者に対し、●●年●月●日までに提出するものとする。ただし、第3条ただし書の場合には、委嘱者が解散し、又は政治団体でなくなった日から●日以内に提出するものとする。

第6条（政治資金監査報告書の利用の制限）

受嘱者が委嘱者に提出する政治資金監査報告書は、法第19条の14に従い、委嘱者の会計責任者が収支報告書を提出するときに併せて提出する目的に限り有効である。したがって、受嘱者の政治資金監査報告書は、他のいかなる目的にも使用してはならない。

第7条（保証の有無）

受嘱者が実施する本業務は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して行われる監査手続とは異なるものであり、国会議員関係政治団体の収支報告書や会計帳簿等の適正性・適法性について、政治資金監査報告書において意見表

明を行うものではない。

第8条（委嘱者の責任）

委嘱者は、受嘱者が効率的かつ適切に本業務を実施できるよう受嘱者に全面的に協力する。

- 2 委嘱者は、法の定めるところに従い、会計事務及び支出手続を行い、収支報告書及び会計帳簿を作成して、受嘱者に対し、提出しなければならない。
- 3 委嘱者は、本契約書第3条に定める本業務の対象期間の会計帳簿に記載された支出に係る全ての領収書等を、受嘱者に対し、提出しなければならない。また、委嘱者は、領収書等を徴し難い事情があったときは、領収書等を徴し難かった支出の明細書又は振込明細書に係る支出目的書を作成して、領収書等を徴し難かった支出の明細書又は振込明細書及び振込明細書に係る支出目的書を、受嘱者に対し、提出しなければならない。
- 4 委嘱者は、領収書等又は振込明細書が徴取漏れ又は亡失により存在せず、また、領収書等を徴し難かった支出の明細書にも記載していない支出（人件費以外の経費の支出に限る。）については、領収書等亡失等一覧表を作成して、受嘱者に対し、提出しなければならない。
- 5 委嘱者は、本契約書第3条に定める本業務の対象期間に係る明細書を、受嘱者に対し、提出しなければならない。
- 6 委嘱者は、本契約書第3条に定める本業務の対象期間最終日（解散し、又は政治団体でなくなった場合は、解散日又は政治団体でなくなった日）における残高確認書を作成して、受嘱者に対し、提出しなければならない。併せて、添付書類として金融機関が作成する残高を証する書面等を提出しなければならない。
- 7 委嘱者は、収支報告書に記載すべき翌年への繰越しの金額が残高確認書に記載された残高の額と一致しないことが判明したときは、差額説明書を作成して、受嘱者に対し、提出しなければならない。
- 8 委嘱者は、受嘱者の本業務が円滑に行われるために、以下のとおり受嘱者に協力するものとする。
 - （1）会計帳簿や領収書等を複数の事務所において管理している場合には、本契約書第5条第2項に定める本業務の実施場所に集約すること。
 - （2）領収書等を支出項目別及び年月日順に整理するなど、本業務を受ける体制を整備すること。
- 9 委嘱者は、受嘱者からの書面又は口頭による質問に対しては遅滞なく真実を回答しなければならない。
- 10 受嘱者が政治資金監査マニュアルに従い実施する委嘱者の会計責任者等に対するヒアリングは、会計責任者本人が出席しなければならない。

- 11 委嘱者は、収支報告書及び政治資金監査報告書の提出並びに法第19条の14の2第2項の確認書の添付については、電子情報処理組織を使用する方法により行うものとする。

第9条（受嘱者の責任）

受嘱者は、政治資金監査マニュアルに基づき本業務を行い、電子署名を付した政治資金監査報告書を作成し、委嘱者へ提出する責任を有する。

- 2 受嘱者は、収支報告の適正の確保と透明性の向上を図るという政治資金監査制度への信頼を損なわないよう、適確に政治資金監査を行い、政治資金監査報告書を作成しなければならない。
- 3 受嘱者は、本契約書第5条第1項に定める本業務の実施の時期までに、政治資金適正化委員会が行う政治資金監査に関する研修を修了しなければならない。
- 4 受嘱者は、本業務を遂行する上で使用人等を使用する場合には、指揮命令系統、業務分担等を明らかにした上で、使用人等にも政治資金規正法上の秘密保持義務が課されることを周知徹底し、適切な指示及び監督を行わなければならない。

第10条（秘密保持義務）

受嘱者は、法の規定により、本契約期間中及び本契約終了後において、正当な理由がなく、本業務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。使用人その他の従業者又はこれらの者であった者についても同様とする。

第11条（報酬の額及び支払の時期）

本業務に係る報酬の額は、×××円（別途消費税）とする。

- 2 支払の期限は、前項に定める額の2分の1について本契約締結後1か月以内、残りの額について政治資金監査報告書の提出後1か月以内とし、支払の方法は、受嘱者が指定する預金口座に送金する方法によることとする。
- 3 本業務に係る業務量が本契約に際して見積もった業務量を超えた場合には、受嘱者は第1項の報酬の額の増額を申し出ることができるものとし、この場合には双方誠意をもって協議するものとする。ただし、業務量の増加の原因が、もっぱら受嘱者の側にあるときはその限りでない。

第12条（経費の負担）

受嘱者が本業務を実施するために必要な交通費、宿泊費等の経費は委嘱者の負担とする。

第13条（反社会的勢力の排除）

委嘱者及び受嘱者は、相手方に対し、自らが、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ又は特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（以下これらを「暴力団員等」という。）に該当しないこと、及び次の各号のいずれにも該当しないことを表明し、かつ本契約有効期間にわたって該当しないことを確約する。

- (1) 暴力団員等が運営を支配していると認められる関係を有すること。
 - (2) 暴力団員等が運営に実質的に関与していると認められる関係を有すること。
 - (3) 自己、自団体若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもってする等、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること。
 - (4) 暴力団員等に対して資金等を提供し、又は便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること。
 - (5) 役員又は運営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること。
- 2 委嘱者及び受嘱者は、自ら又は第三者を利用して次の各号のいずれに該当する行為も行わないことを確約する。
- (1) 暴力的な要求行為
 - (2) 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - (3) 取引に関して、脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為
 - (4) 風説を流布し、偽計を用い又は威力を用いて相手方の信用を毀損し、又は相手方の業務を妨害する行為
 - (5) その他前各号に準ずる行為

第14条（契約の解除）

次の各号に該当する場合、受嘱者は委嘱者に対し、何らの催告をすることなく本契約を直ちに解除することができる。この場合において、委嘱者は、本業務着手前においては既に支払った報酬の返還を要求せず、本業務着手後においては本契約書第11条第1項の報酬の全額を受嘱者に支払うものとする。

- (1) 委嘱者の責めに基づき本業務の実施が不可能になった場合
 - (2) 委嘱者の会計責任者又は担当者が受嘱者の業務遂行に誠実に対応しない場合など、信頼関係が著しく損なわれた場合
 - (3) 前条において委嘱者が表明、確約した内容に反する事実又は行為が明らかになった場合
- 2 次の各号に該当する場合、委嘱者は受嘱者に対し、何らの催告をすることなく本契約を直ちに解除することができる。この場合において、受嘱者は、既に受領した報酬を委嘱者に返還するものとする。

- (1) 受嘱者の責めに基づき本業務の実施が不可能になった場合
- (2) 前条において受嘱者が表明、確約した内容に反する事実又は行為が明らかになった場合

第15条（損害の賠償）

受嘱者の故意である場合を除き、本契約に関連して発生した、受嘱者の委嘱者に対する賠償責任の限度額は、本契約書第11条の報酬の額に限定されるものとする。

第16条（合意管轄）

本契約に関する訴訟については、委嘱者の主たる事務所を管轄する裁判所において取り扱うものとする。

第17条（その他）

本契約に定めのない事項又はその解釈に疑義が生じた事項については、双方誠意をもって協議して解決するものとする。

本契約締結の証として本契約書2通を作成し当事者各1通を保有する。

××年×月×日

	〇〇県〇〇市〇〇〇〇町××番××号	
委嘱者	国会議員関係政治団体	○ ○ ○ ○
代 表 者		○ ○ ○ ○ 印

	〇〇県〇〇市〇〇〇〇町××番××号	
受嘱者	登録政治資金監査人	○ ○ ○ ○ 印
登 録 番 号	第××××号	